

令和2年度第1回小牧市こども・子育て会議

|               |                            |                    |
|---------------|----------------------------|--------------------|
|               | 日 時                        | 令和2年6月12日(金) 午後2時  |
|               | 場 所                        | 小牧市役所 本庁舎6階 601会議室 |
| 学 識 経 験 者     | 兵庫教育大学<br>小学校教員養成特別コース 准教授 | 鈴木 正敏              |
|               | 保育士経験者(元指導保育士)             | 長江 美津子             |
| 各種団体関係者       | 小牧市教育委員会 教育委員              | 伊藤 和子              |
|               | 小牧市小中学校校長会 代表              | 中川 裕子              |
|               | 小牧市区長会 代表                  | 伴野 純二              |
|               | 小牧市青少年健全育成市民会議 代表          | 野々川 和明             |
|               | 小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表       | 田中 正造              |
|               | 小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表       | 山岸 伊久美             |
|               | 小牧市社会福祉協議会 代表              | 山田 好広              |
|               | 小牧市母子保健推進協議会 代表            | 山本 恒子              |
|               | 保育園長会 代表(公立園)              | 余語 美紀              |
|               | 保育園長会 代表(公立園以外)            | 長谷川 誓              |
|               | 保育園保護者会 代表(公立園)            | 武智 美緒              |
|               | 保育園保護者会 代表(公立園以外)          | 堀江 梢               |
|               | 小牧市私立幼稚園連合協議会 代表           | 松岡 明範              |
|               | 小牧市私立幼稚園保護者会 代表            | 岩瀬 美穂              |
|               | 小牧市立第一幼稚園 代表               | 小川 由美子             |
|               | 勤労者 代表                     | 廣瀬 和史              |
|               | 小牧市立学校地域コーディネーター 代表        | 佐橋 明味              |
|               | 小牧市小中学校PTA連絡協議会 代表         | 土屋 洋一              |
|               | 小牧市子ども会連絡協議会 代表            | 石黒 薫               |
| こまき市民活動ネットワーク | 鳥居 由香里                     |                    |
| 公 募 委 員       |                            | 船橋 孝仁              |
|               |                            | 北畠 久美子             |
| 欠 席 委 員       | 事業者 代表                     | 岡田 和秀              |

※傍聴者1名

## 1 あいさつ

### 【事務局】

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、令和2

年度第1回小牧市こども・子育て会議を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、こども政策課長の伊藤と申します。どうぞよろしく  
お願いいたします。

本日の会議につきましては、新型コロナウイルス感染予防のため、マスクの着用と換気をさせてい  
ただいておりますので、ご了承ください。

また、本日ご発言をいただくときにはマイクをお使いいただきますが、同じく感染予防のため、発  
言者が交代するごとに一旦マイクを事務局にて引き取らせていただき、感染予防対策をさせていた  
きますので、若干の不手際が生じるかもしれませんが、ご理解いただきたいと思います。

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

事前にお送りしております資料といたしまして、資料1「小牧市こども・子育て会議要綱」、資料  
2「小牧市こども・子育て会議委員名簿」、資料3-1「小牧市子ども・子育て支援事業計画令和元  
年度実績報告書1」、資料3-2「小牧市子ども・子育て支援事業計画令和元年度実績報告書2」で  
す。

本日、机の上に配布させていただきました資料として、資料4「放課後子ども総合プラン導入検討  
委員会からの報告書」、資料5「第一幼稚園のあり方に関する検討部会の今後の予定について」、参考  
資料として、「小牧市地域こども子育て条例」、「小牧市子ども・子育て支援事業計画（平成30年3  
月改訂版）」です。

また、本年度より新たにご就任いただきました委員の皆様には、参考資料として、「第2期小牧市  
子ども・子育て支援事業計画」を机上配布させていただいております。不足等ございましたら、お知  
らせください。よろしいでしょうか。

本日の会議は公開であり、ただいまのところ傍聴者の方は1名となっております。

また、会議の定足数につきましては、小牧市こども・子育て会議要綱第4条第2項で、過半数13  
名の出席が必要とされておりますが、本日は24名の委員にご出席いただいておりますので、会議と  
して成立することをご報告させていただきます。

それでは、ここで、こども未来部長の鍛冶屋より、ご挨拶申し上げます。

## 【事務局（こども未来部部長）】

皆様、こんにちは。本日は、ご多忙にもかかわらず、令和2年第1回小牧市こども・子育て会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、それぞれのお立場から、日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚く感謝申し上げます。

さて、本日は、令和元年度小牧市子ども・子育て支援事業計画の実績報告のほか、放課後子ども総合プラン導入検討委員会からの報告などを予定しております。

また、本年度は、第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画の初年度となり、放課後子ども総合プラン導入についても、令和3年度からモデル事業に係る検討を進めてまいります。新型コロナウイルス感染症拡大によって、子ども・子育てを取り巻く環境も大きく影響を受けており、今後もその時々々の状況に応じて各施策を実施していく必要があると考えております。

委員の皆様方には、これから2年間、大変お世話になりますが、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 2-1 委員任命

#### 【事務局】

続きまして、こども・子育て会議の委員の任命を行います。お手元の資料の中で、「小牧市地域こども子育て条例」のパンフレットをご覧ください。こちらの条例第17条の規定に基づき、本会議の委員は25名以内となっております。任期満了に伴いまして、令和2年5月30日付をもちまして、25名の方を改めて委員として選出させていただいております。

任命書につきましては、本来であればお一人おひとり交付させていただくところではございますが、時間の都合もあり、あらかじめ新規任命委員の皆様のお手元に置かせていただいております。ご了承賜りますようお願いいたします。

続きまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

お手元の資料2をごらんください。委員数は25名となっております。今回初めて委員となられた方もお見えですので、本来であれば自己紹介をお願いしたいところではございますが、マイクを回す形となるため、大変恐縮ではございますが、私から名簿順でご紹介をさせていただきます。

## 《事務局より委員紹介》

### 【事務局】

委員の皆様方には、またいろいろとお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。

なお、本日、岡田委員につきましては、ご欠席との連絡をいただいておりますので、ここでご報告をさせていただきます。続きまして、事務局を私のほうからご紹介させていただきます。

こども未来部部長の鍛冶屋、こども未来部次長の櫻井、多世代交流プラザ準備室長兼子育て世代包括支援センター所長の川尻、子育て世代包括支援センター副所長の岡本、指導保育士の近藤、児童センター所長の森島、保健センター所長の西島、学校教育課長の堀田に代わりまして、学校教育課管理指導主事兼主幹の加藤です。併せて、本会議には、関連する分野の担当係長が出席しておりますのでよろしくお願ひします。

## 2-2 会長および副会長選出

### 【事務局】

続きまして、議事に入ります前に、この会議を運営していただくため、会長を選出してまいりたいと思います。

要綱第2条第1項及び第2項におきまして、本会議に会長を置き、会長は、市長の指名により定めることとされておりますので、事務局で選出をさせていただきます。

会長につきましては、兵庫教育大学にて小学校教員養成特別コースを専攻されており、児童教育に係る学識をお持ちで、小牧市の教員研修や幼保研修等に携わっていただいていることから、本市の状況もよく御存じであります鈴木委員にお願いしたいと思ひます。よろしいでしょうか。

(拍手)

それでは、鈴木委員におかれましては、お手数ですが、中央の席にお移りください。

続きまして、小牧市こども・子育て会議要綱第2条第2項に基づきまして、会長から副会長のご指名をお願いしたいと思ひますが、皆様、よろしいでしょうか。

### 【鈴木会長】

それでは、私からの指名をとということですので、保育士経験者であります、長江委員にお願いいた

します。

#### **【事務局】**

それでは長江委員におかれましては、お手数ですが、中央の席にお移りをいただきたいと思います。それでは、鈴木会長、長江副会長に一言ずつ御挨拶をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### **【鈴木会長】**

皆様、こんにちは。このたび会長を拝命いたしまして、皆様とともに、小牧市の子ども・子育てについて審議を進めていきたいと思っております。

小牧市に関わらせていただいてから10年以上がたつのですけれども、研修等で小牧市の先生方と一緒に仕事させていただいております。本当にきちんとして、かなりいろいろな努力をされて、このコロナのときもいろいろな政策を打たれて、非常に近隣の市町の模範となる市でありますので、そのようなところへ一緒に参加させていただくことをうれしく思っています。どうかよろしく願いいたします。

#### **【長江副会長】**

改めまして、長江と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議委員名簿に保育士経験者(元指導保育士)と書いてありますが、元指導保育士といいましても、かなり前のことになります。長年子どもたちのことに関わって、これから、どんどん未来を切り開いていく子どもたちが、生き生きと輝いてほしいなと感じており、こうやって会議に参加させていただくことで、子どもの幸せを願って語り合える場に参加させていただき、本当にありがたく思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

#### **【事務局】**

ありがとうございました。それでは、これからの進行につきましては、鈴木会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

### **3 議題**

#### **【鈴木会長】**

それでは、ここから私が議事を進行させていただきます。お手元の次第に基づいて会議を進めたい

と思います。

議題となっている「小牧市子ども・子育て支援事業計画の令和元年度実績報告について」、事務局の説明をお願いします。

### 【事務局】

それでは、小牧市子ども・子育て支援事業計画の令和元年度実績報告について、説明させていただきます。

令和元年度の実績報告の説明に先立ちまして、平成27年度から令和元年度までを計画期間として策定しました第1期の子ども・子育て支援事業計画の概要を説明させていただきます。

本日、机上にて配付させていただきましたが、小牧市子ども・子育て支援事業計画（平成30年3月改訂）の2ページを御覧いただきたいと思います。

まず、計画策定の背景と趣旨ですが、近年、出生数の減少、少子高齢化や女性の社会進出、核家族化などの社会環境の変化に伴い、少子化対策や子育て支援のニーズが高まっております。

従来からも次世代育成支援対策推進法の制定などの取組みがありましたが、平成24年8月に子ども・子育て支援法が制定され、子ども及び子どもを養育している方に必要な支援を行うことで、一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指すこととされました。

小牧市におきましても、次世代育成支援対策推進法に基づく小牧市次世代育成支援対策行動計画を策定して取組みを進めてまいりましたが、子ども・子育て支援法の制定に伴い、平成27年度にこの小牧市子ども・子育て支援事業計画を策定したものであります。この事業計画が小牧市の子育て施策の基礎となっており、その内容に沿って、各年度の各施策を進めることとしてまいりました。

3ページをお願いいたします。

計画の法的根拠と位置づけですが、この計画は、子ども・子育て支援法第61条で市町村が定めることとされている、国の基本指針に即して5年を1期とする教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保、その他子ども・子育て支援法に基づく業務の円滑な実施に関する計画として策定しており、第1期の計画期間は平成27年度から令和元年度までとなっております。

本計画は、前身の小牧市次世代育成支援対策行動計画の利点等を継承しつつ、市の他の計画と整合を図る位置づけとしております。

4ページをお願いいたします。

子ども・子育て支援新制度の事業体系ですが、(2) 子ども・子育て支援サービスの概要として、子ども・子育て支援法に基づき市町村が実施するサービスとしては、大きく子ども・子育て支援給付と地域子ども・子育て支援事業に分かれます。前者は、施設型給付として幼稚園、保育園等、地域型保育給付として小規模保育事業等が該当いたします。後者は、時間外保育事業や放課後児童クラブをはじめ、この表記載の事業が該当いたします。

8ページから15ページまでが計画策定において参考といたしました小牧市の人口等の状況です。また、16ページから24ページまでが計画策定等で実施しましたアンケート調査の結果となっております。お時間もございますので、内容の説明は割愛させていただきます。

26ページ以降は、計画の基本的な考え方となっており、小牧市第6次総合計画新基本計画のコンセプトを踏まえ、第1期計画では下段にある内容を基本理念といたしました。

27ページのとおり、この計画は、4つの基本目標を柱としており、28ページになりますが、それぞれの基本目標に対する施策体系が記載してあります。

30ページ以降になりますが、各施策体系の中の具体的な取組みをそれぞれ記載しており、これから説明いたします実績報告は、この取組みにおける第1期計画最終年度である令和元年度の実施内容でございます。

子ども・子育て会議においては、小牧市地域子ども子育て条例の第16条に所掌事務を定めておりますが、そのうちの1つが、子どもに関する施策の実施状況を検証し、及び総合的に推進するための調査事務となっております。実績報告について評価いただくことで、計画の進捗管理や事業の改善に取り組んでまいりたいと思いますので、ご意見等を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画につきましては、令和2年度から令和6年度までの第2期計画となっており、今年度からの各子育て政策につきましては、こちらの内容に基づき実施してまいります。

それでは、実績報告の説明に入らせていただきます。大変申し訳ございません。先に資料の訂正をお願いいたします。

資料3-1、3ページになります。

№. 3 母親クラブの育成をお願いします。右から3列目の質的分析の一番下の行になります。R1年度、「514名」を「585名」に訂正をお願いいたします。

続きまして、8ページをお願いいたします。

№. 2 放課後子ども教室は、左から2列目のR1年度実績、一番上の行になります。市内15小  
学校で年間「341回」実施を「340回」に訂正をお願いいたします。

訂正は以上となります。大変失礼いたしました。

ここからの説明は主に資料3-1により行わせていただきます。

実績報告は年度毎で実施しており、この資料3-1は、令和元年度分となります。第1期計画としては、最終の実績報告となります。

評価といたしましては、全体を通じて実施状況が3「計画を実施（見込み並みもしくは例年並み）」が多いですが、いくつかの取組みを簡単に説明させていただきます。

なお、表の途中で評価指標や実施状況などに斜線が入っている項目がございますが、例えば、手当の支給事業のように、国等の制度に沿って実施するものについては個別評価を行わないということにしておりますので、斜線といたしております。

まず、資料3-1の1ページをお願いいたします。

№. 4 夢にチャレンジ助成金支給事業は1件助成を行いました。例年より応募件数が減少いたしました。周知方法の検討が必要になっております。

2ページをお願いいたします。

№. 2 子育て支援ネットワークづくりは、支援が必要な家庭を取りこぼすことなく、関係機関が連携した必要な支援が行われるようにするため、平成30年度に供用を開始しました子育て世代包括支援センターを拠点とした、関係機関等ネットワークづくりに努めました。

8ページをお願いいたします。

№. 3 放課後子ども総合プランは、小学生児童の放課後の居場所として、放課後子ども教室と児童クラブをそれぞれ運営しておりますが、一部では児童クラブと放課後子ども教室が合同で読み聞かせを行っており、児童クラブの児童が放課後子ども教室の体験的な活動に参加できております。

今後、小牧市として、2つの事業を一体的に運営する放課後子ども総合プランをどのように計画・

実行していくかを検討する場として放課後子ども総合プラン導入検討委員会を設置し、課題の洗い出しを行ったほか、モデル地区の選定も行いました。引き続き、課題の整理、モデル事業の実施内容の検討を進めてまいります。後ほど、放課後子ども総合プラン導入検討委員会の検討内容を報告いたします。

9ページをお願いいたします。

№. 1子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業）は、前年度と比べて利用件数が減少しました。一方で、本事業は周囲から支援が得にくい家庭にとっては重要な事業であり、支援できる援助会員を増やすために、引き続き広報活動に取り組むなどの必要があります。

№. 2一時預かり事業は、利用件数の増加を受け、令和2年4月からは第一幼稚園でも実施しております。

10ページをお願いいたします。

№. 4放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）は、延べ利用児童数は昨年度から減少しましたが、登録児童数については、学校規模によって増減があり、人数が多い児童クラブの施設の狭隘化に対応する必要があるほか、放課後子ども総合プランの導入検討に併せて、保護者負担金の見直しにも取り組んでまいります。

19ページをお願いいたします。

№. 1保育園の整備は、じょうぶし保育園の開園、外山幼稚園の幼保連携型認定こども園化、小規模保育園こすもの開園により受入枠を拡大しました。今後は、第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育園の適正配置について検討してまいります。

続きまして、資料3-2の25ページをお願いいたします。

保育園・認定こども園・地域型保育事業ですが、中段の表、全市の実績につきまして、令和元年度については、全て②確保の内容が①実績を上回っており、東部地区、中部地区、西部地区も同様に、必要量を満たすことができた状況になっております。

先ほど資料3-1の最後に説明しました保育園の整備等により、特に中部地区においては、前年度と比べてもこのような形になっております。今後は、地区ごとの保育ニーズと受入枠のバランスを考慮しながら、適切な利用定員の設定について検討していきます。

概略ではございますが、資料の説明は以上とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

### 【鈴木会長】

それでは、「小牧市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度進捗状況につきまして、点検及び評価を行いたいと思います。まずは、資料3-1の施策の内容につきまして、ご意見いただきたいと思います。何かご意見はありますか。それでは長谷川委員、お願いします。

### 【長谷川委員】

村中保育園の長谷川でございます。

1ページ、No.4夢にチャレンジ助成金支給事業について、令和元年度の実績は1件だったということで、実施状況の評価が「2」になっています。この評価点のつけ方なのですが、例えば2ページのNo.2子育て支援ネットワークは、昨年と比較して非常に様々な宣伝・広報を行っていただいたことや、市内・市外様々なところで担当の方がご努力をされたことにより、いい結果が出ているのではないのかなと思うのですが、評価としては「3」になっています。3点目、母親クラブの育成。年々減ってきているのですが、実施状況の評価としては「3」がついている。この評価の与え方、考えをお聞かせください。

### 【鈴木会長】

ありがとうございます。

評価については、各担当課が行っていると思うのですが、それぞれの評価基準を担当部署間で調整するというのもなかなか難しいのかとも思う部分もありますが、いかがですか。

### 【事務局】

ただいまご質問いただきました部分について、ご回答させていただきます。

まず、1ページのNo.4夢にチャレンジ助成金支給事業につきましては、前年度の実績報告と比較いたしますと、件数が2件から1件に下がったということで、もともと市の計画としても、例年並みということで想定していたところが、結果的に1件しかなかったというところで、「2」の評価をつけさせていただいております。

2ページのNo.2子育て支援ネットワークづくりにつきましては、前年度の実績報告としては訪問回数等が増えていますが、平成30年度は年度途中で子育て世代包括支援センターの供用を開始し

たのですが、令和元年度は1年を通して活動してきたということで、ある意味、予定どおりネットワークづくりに励んだということで、あえて「見込み以上」という評価はつけておりません。

3ページのNo. 3母親クラブの育成につきましても、クラブ員の人数は減少傾向にありますが、母親クラブの活動そのものにつきましては、例年どおりやっただいているということがあるので、評価を「2」にせずに「3」にしております。

評価につきましては、先ほど会長もおっしゃったようにある程度の基準を設けたうえで各課から出させていただいているのですけれども、この3点については、以上のとおり評価させていただいております。以上です。

### 【長谷川委員】

ありがとうございました。

様々工夫して行ったものは自信を持って「4」をつけていいと思います。逆に、3ページの母親クラブのように減ってきた事業は、その原因は何だろうか。そちらの対策を考えていった方が良くはないのかなと思います。せっかく各事業、いろいろな工夫をして、特に訪問に関しては、なかなか行っても会えないというようなことがあったりして、苦勞しているというような話も聞いています。そのところを越えていってきているので、どうか自信を持って評価していただきたいと思います。

### 【鈴木会長】

ありがとうございます。

どこに原因があるか、そういうところも少し見ておく必要があるというご指摘もありがとうございますので、改善に向けて、さらにより一層という形にはなりますが、何か説明したりとか方策したりしていただいて、改善に努めていただければと思います。

長谷川委員、どうもありがとうございました。他にご意見、ご質問あれば、よろしくお願いします。

### 【鳥居委員】

鳥居です。よろしくお願いいたします。

まず、1点目が、1ページのNo. 4の夢にチャレンジ助成金支給事業について、これは減少しているということで、今後、周知方法の検討が必要だということですが、若い方というのは、情報を知るツールというのが変わってきていると感じています。周知方法については、そこをしっかりと

理解されて進めていく必要があるのかなと思います。本当に、もうパソコンじゃなく、スマホの検索で大体情報をキャッチしている。

No. 6についても、やはり留学というのも、夢だと思いますので、そこを包括した意味で、ぜひこの事業は進めていただきたいのです。皆さんへの周知徹底はぜひ、スマホとか、今のツールでしっかりと情報は流す。スマホでも、今、みんな動画サイトとか、言葉ではなく、映像で皆さんに情報を伝えていると思います。そういう方法が必要かなと思います。

あと、12ページの、私立高校と専修学校の授業料の補助についてです。評価が「4」ということで、私もいいと思っております。この事業に関連して、これは私立高校、専修学校という限定なのですけれども、大学生は、夢以前に本当に困窮な状態になっておりまして、今後の課題として、私は大学生も何か補助や援助ができないのかなと思っております。名古屋市などでは、学校の掃除などが大変になっているので、大学生にやっていただいて、その対価としてお金を出しているということをちょっとお聞きしました。何かやったことで、そのような困窮をサポートするという方法もあると思いますので、ぜひ、子どものためにということで、お金だけではなく、ちょっと違う方法も検証されるといいのではないかなと思います。以上です。

### 【鈴木会長】

鳥居委員、ありがとうございます。

事務局からコメントをいただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

### 【事務局】

こども政策課の遠山と申します。

ご指摘のあった夢にチャレンジ助成金についてですが、現在、周知方法としては、広報、ホームページ、あと、近隣の高校9校、大学5校及び市内の公共施設にてチラシ、ポスター等を張りまして周知しています。募集件数が少なければ第2回の募集をかけさせていただきまして、その都度、同ツールを使いまして周知しています。

今後の周知方法なのですけれども、見直しの検討が必要ということで、近隣の5大学で配布してないところがございますので、県内の大学に幅を広げたり、今後検討は必要なのですが、中学校の3年生等を対象にチラシを配布したり、そういった検討をしていきたいと思っております。以上です。

## 【鈴木会長】

そうですね。夢以前に困窮しているということもありましたので、もう少しその辺りも検討いただけたらなというふうに思います。

あとは留学支援。今年は、ちょっと実施が難しいですね。海外がほとんど閉ざされていますので、今年度は多分、特別な事情ということで、事業の見直しということになるかと思います。その辺も含めて、そういったところを夢のほうに持ってきたり、困窮している学生、大学生等、かなりほかのことで問題にはなっていますので、やはりその辺もご検討いただきたいといったご意見ということで、お願いします。

急にはなかなか対処できないと思いますけれども、ぜひ支援の中に取り入れていただきたい、少しでも前進していただきたいというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。では、廣瀬委員お願いします。

## 【廣瀬委員】

今回評価された中身というのは、昨年の活動の評価というように受け止めているわけですが、昨今起きている新型コロナウイルスの関係によって、昨年やってきた活動では、今年はまともに対応できないという認識を持っています。特に、集合型での開催だとか訪問しての開催というのは非常に困難な状況の中で、やはり、そのやり方に対して、新たな目線で計画を見直さないと、同じことをやっていたら人は集まらないとか、人が来ないとかというのは当たり前のように起きるので、その辺りの見直しをぜひとも今の段階からスタートしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

## 【鈴木会長】

こちらは、なかなか大変だとも思うのですが、コロナについて、対応の状況はいかがでしょうか。色々なことで、もう本当に細かいレベルでご検討されているとは思いますが、足並みもそろっていないとか、いろいろなこともおありかとは思いますが、いかがでしょうか。

## 【事務局】

森島です。ご質問ありがとうございます。

子育て支援室とか児童センター、児童館の支援室、包括もそうなのですが、コロナの対策としまして、利用者について、定員を設けて、時間を区切って行っております。時間と時間の間では、

1時間ほど消毒の時間を設けて、念入りにきれいに消毒して、また来館者を入れるということをして  
おります。以上です。

### 【鈴木会長】

ありがとうございます。今、廣瀬委員のおっしゃるように、本当にこのコロナの対策で、令和元  
年度と同じように令和2年度はできないというようになってくるかと思うのですね。その基準も含め  
て、ご検討いただくのがいいかなと思います。

本日の事務局から説明いただいたのは元年度、つまり昨年度の実績分の評価ですので、3月以降の  
一部を除いて、まだコロナの影響は少ないのですが、今後の方針として、コロナ後ですね、その評価  
の仕方も含めて検討いただいて、会議に出していただくというような形で検討いただければいいかな  
というように思いますが。廣瀬委員、いかがでしょうか。

### 【廣瀬委員】

はい。よろしくをお願いします。

### 【鈴木会長】

それでは、他にご質問、ご意見ありませんでしょうか。松岡委員、お願いします。

### 【松岡委員】

私立の幼稚園の代表の松岡と申します。

9ページの一時預かり事業について、2つ意見を述べたいと思います。

この事業については、非常に需要が増えていることもあって、私立幼稚園においても対応させてい  
ただいているところかと思えます。昨年度については、事業計画そのものが、まだ対応ができていな  
いということがあって、こういった報告で問題ないと思うのですけれども、昨年度の10月からは、  
幼児教育・保育の無償化ということになりまして、その中で、私立幼稚園における預かり保育でも条  
件によっては、保育園とかこども園の2号、新制度園の2号に相当するような子どもさん、いわゆる  
新2号の子どもさんのいる場合は無償化の対象になるということで、そのような預かり保育の対応が  
始まりました。

今回のこのデータの中には、その対象の方々も延べ人数として入ってしまっているわけですので、  
その該当者がこの事業報告の中でどのくらいいるかということが数字として出てきません。今後、新

しい事業計画でも、そのことは確かまだ盛り込まれてないと思うのですが、報告においては、やはりその数字がわかることが大事かなと私は思っています。

といいますのも、新2号の該当者は、いわゆるスポット的な、一般的な幼稚園における預かり保育の対象者ではなくて、両親とも働いているとか、いわゆる保育所の入所要件と同等の要件が必要なわけで、そういう認定を受けなければならないということですから、事実上、保育園の園児と同じということになるわけですので、そういう事例がどのくらいあるかということが、やはり数字として見えることが必要かなと思っています。

一時預かり事業で表すのが良いのか、資料3-2の実績のところとも関係してくるのですが、私の個人的な意見では、資料3-2のところに、そういう対象者がわかるような数字として出てくる、そのような報告の仕方や、数字の取り方のほうが正しいのではないかなと思うのですが。

なぜかという、国の施策として、どのような方針で無償化を進めているのか。私が言えることではありませんけれども、おそらく幼稚園においても、このような形で預かり保育を推進することによって、需要に対応していくことで、当然これは事業計画にも本来盛り込んで行かなければいけない、行ったほうが良いと思います。

そうしますと、先ほど保育園の整備等についても言及がありましたけれども、当然、その需要が増えてくれば、それに対応するだけのキャパを用意しなければいけないということで、保育所が足りなければ新たに設置することも必要になってくると思います。しかし、3号については、幼稚園では対応できませんが、2号に関して言うならば、幼稚園が預かり保育で対応していくことができるということで、そこまで無償化を進めているということは、そのような方向で幼稚園においても推進してほしいというのが国の考えなのではないかなと私は推測いたします。

そうしますと、そのための環境整備も必要になってくるわけで、今、私立幼稚園で一番不足しているのは、やりたくても、受け入れるだけの環境整備がまだできないということです。予算も足りないということがあるだろうと思います。そこに対する公的な補助をどこが担当するかということもなかなか難しいことで、市町村がやることなのか、私学助成を受けてやっている園なのだから、預かり保育の助成自体、今、小牧市内は全て私学助成でやっており、県を通じて助成を受けているので、環境整備も県でやるのが筋でしょうということなのかなとも思うのですが。

では、どれだけの実態があつて、今後、ニーズ調査等も含めて、どれだけの整備が必要かということ、やはり数字的にわかる、明らかになるということが必要になってくると思いますので、そういったことがわかるような実績報告が今後必要になると考えています。以上です。

### 【鈴木会長】

ご指摘、ありがとうございます。では、この意見について事務局からの回答をお願いします。

### 【事務局】

幼児教育・保育課の葛谷と申します。

今、松岡委員からご意見がありましたとおり、一時預かり事業とあり、法律上は「一時預かり事業」というひとくくりになっているのですが、幼稚園で行っているものと、保育園でも行っているものは、対象も違えば、色々な部分で異なっています。

さきほどの松岡委員からのご意見を含め、昨年度、第2期の子ども・子育て支援事業計画を、この会議でもご審議いただいて策定させていただいたところなのですけれども、一時預かりについても、この第1期に比べて幼稚園の部分と保育園の部分ということで、少し分けて定義するなど、少しでも分かりやすくしております。

実績につきましても、昨年10月から、無償化で大きく制度も変わりました、今まで私立幼稚園は、市というよりも県の私学振興室といった部署とのつながりでやってみえて、なかなか市としても情報がつかめない、園に聞き取りをして、いろいろ手間をかけて数字を出していただいていたのですが、無償化の制度改正の中で、先ほど松岡委員から新2号とか新3号という言葉が出てきたのですけれども、市のほうに届出としてもらい、市が認定するということが数字の把握等ができるようになりましたので、令和2年度以降はそういった視点も踏まえて、今までよりさらに分析できるような形で、その部分は工夫して、また数字を捉えていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。以上です。

### 【鈴木会長】

では、2年度からは、その報告の中に数字として、わかりやすい形でやると。

その数字とか実態、あるいは事情とかを維持したまま、推測はできないけれども、多分やっていると分ると思うのですけれども、こちらで必要があるときには、そのことを若干考慮していただいて、

ご報告願えればな、というように思います。よろしく願いいたします。

では、ほかにご意見等ありますでしょうか。

### 【長谷川委員】

今の意見に関連してくるのですが、3-2の資料について。

### 【鈴木会長】

長谷川委員が、3-2の資料についてのご意見あるようなのですが、3-1については、他にご意見よろしいでしょうか。無ければこのまま、3-2の資料にうつりたいと思うのですが。

3-1の資料については他のご意見は無いようなので、長谷川委員よろしく願いします。

### 【長谷川委員】

よろしいですか。すみません。

一時預かり事業について、資料3-1の9ページだと、私立保育園の延べ利用人数が4,680件。3-2の35ページ。こちらの実績でも4,680件となっていますが、実績も確保の内容も毎年ずっと一致しています。先ほど言われたように、幼稚園と保育園では、保育園は、低未就園児の方が、今日は1日預けたいというようなときにお預かりをしているような形。幼稚園のほうは、幼稚園に在園している子が、通常の幼稚園にいる時間より長く預かるというようなのが一時預かり事業となっているかと思います。

そうなるとこれは、実績と確保の内容のうち、これまでも確保の内容は、例えば、定員といった私たちに決められている数と聞いておりますが、これがこの一時預かり事業で、実績と確保の内容がずっと数字が一致している、その根拠を教えてください。

また、平成27年度から令和元年度まで約1.5倍増えてきているのですね。これこそ評価が、幼稚園のほうは「4」、「4」と続いてきているのですが、自信を持って「4」というようにしていってほしいと思います。お願いします。

### 【鈴木会長】

それでは、事務局から回答お願いします。

### 【事務局】

一時預かり事業の資料3-2の35ページについてですが、実績と過去の内容がなぜ一致している

かというところで、すみません、私の少し推測も入るのですが、こちらは第1期の計画でありまして当初、平成27年度に制度が大きく変わった中で、法律上、このような計画をつくって、進めていきなさいというような形で始めてつくったものだと思うのですが、その際に、見込み方というか、通常、保育園とかですと、在園児であるとか、そういう子たちなのですけれども、恐らくどのくらいニーズがあるか、非常に見込みが難しいのではないかとと思われるものについて、実績は必ず出ますので、実績をもらい、逆と言いますか、その過去の内容、実績に合わせて、来た分はやるという、多分そのような形で記載されてきたのかと思います。したがって、実際のところは、見込みがなかなかできてなかったのではないかなというところで、とにかくこれだけ、やった分はやりますというようなことになっていたのでないかなと思われます。

そういったこともありまして、第2期の昨年度つくった子ども・子育て支援事業計画については、一時預かりについても、アンケートや、そういったものも踏まえてというのがありますので、いろいろ一時預かりについては、職員の体制であるとか、1人当たりで見られる数であるとか、あとは私立保育園さんが何園あるかであるとか、そういったところで、幼稚園の一時預かりについてもかなりの数字が出ているのですけれども、根拠を持って、ここから先5年のものは計画にのせてあります。

### 【鈴木会長】

やれることしかできないというのは、前はどうだったかちょっとわからなかったり、色々あるかと思しますので。

本当はこれ、飛び入りで預けられる方も多いので、計画と実績が一緒というのは、確かにちょっとあれかもというのはありますので。預かってしまったものはしょうがないのですけれども、今後、こういったことがニーズの関係といったことの、幼稚園の預かりもそうですし、保育園での一時預かりもそうですけれども、これが今後どうなるかというのは非常に不透明ですから、それも含めて。先ほどのコロナの対策みたいになると、コロナの対策でもないですけれども、ちょっと変わるかもしれないと思いつながりやっていた方がいいかなというように思います。

とりあえず、このような感じで、半分宿題、半分わかりましたということによろしいでしょうか。

### 【事務局】

ただいま35ページの件の、直接の回答にはならない部分もあるかもしれませんが、同じく資料3

－ 2 の中で、参考として説明をさせていただきたいものがありますので、30 ページをお願いいたします。

先ほど 35 ページに関するご質問で、長谷川委員がおっしゃられたことで、基本的には、実績のうち、確保の内容の部分につきましては、通常で考えられると定員になったりすることが多いということはおっしゃられるとおりでであると思います。

30 ページにつきましては、児童クラブの関係の表になっているのですが、こちらの実績につきましても、先ほどの 35 ページとほぼ同じような形で、平成 27 年度から令和元年度に向かって、実績と確保の内容が全て同じ数字という形になっております。

児童クラブにつきましては、市の条例で、定員に関しては一定の条件を持った計算を行うということで定めているのですが、児童クラブのその条例につきましては、令和元年度末までを経過措置とするということがございまして、その定員を結果的には適用しないということになっておりました。

上段にあります量の見込みよりも、年度によっては多い実績という形で、例えば、平成 28 年度ですと、量の見込みは 2, 172 であったにもかかわらず、実績になると 2, 336 ということで、上回った数字が残っております。

こちらにつきましては、児童クラブは、保護者の方がそれぞれ共働きで働いていて、という利用に関しての条件がありますが、その条件を満たして申込みをした方については、基本的には皆さんを受け入れたと。結果的に運用していない定員に関係なく、実績の数字として 2, 336 人を受け入れたという形になっております。このときに児童クラブが、例えば 2, 100 人が定員であったということであれば、236 人の定員オーバーということになったとは思いますが、当時はそういう運用ではなかったかというところがありますので、こういう事業もある事例として紹介をさせていただきます。

### **【事務局】**

すみません。先ほどの長谷川委員からの質問に少し補足いたします。お手元に第 2 期の計画があるかと思しますので、そちらの 85 ページを御覧ください。そちらの中段です。今、長谷川委員からご指摘があった部分なのですが、第 2 期なので、少し様式が変わっていますが、この一時預かり、一般型の在園児以外というところで、当初、平成 27 年度から過去の 5 年間の数字が載っているのですが、もともとこの 2, 176 であるとか 2, 100 を出している数字があったのですが、当初見込

んでいたより、ニーズがあって上回った実績値がこの3, 1 2 2とか3, 1 6 5とかという形になっておりまして、この実績報告の様式へ落とし込むときに、実績は、見込みを超えてやったという形で、過去の内容を合わせたということで記載していますので、ちょっと誤解があるというか、わかりにくかったと思います。

ですので、表記の仕方が、本来であれば、特段過去の内容を超えてはならないことはないような気がするのですが、合わせてあるということで、見込みより多かったというような形です。

### 【鈴木会長】

見込んだけれども、そういう実績があって、でも、きちんとサービスが提供できたということですね。ただ、見込みと実績の、その辺りの関係性が分からないと、ちょっと混乱するかもということで、ご質問があったのではないかなというように思いますので、その事情をお含みおいて、書いてあることをしっかりしていきますということでご説明いただいたら、多分納得いくのではないかなと思います。

これは、令和元年度の報告なのですけれども、今後、令和2年度以降は実績について、こういった形で確保されているので、恐らくこの中に収まって、きちんと仕事できていますからいいと報告ができるのではないかなというように思っております。

また、表現の仕方を少しお考えいただいて、整合性をとっていただければと思います。

他に、いかがでしょうか。鳥居委員、お願いします。

### 【鳥居委員】

33ページの子育て短期支援事業、ショートステイですね。こちらについて、今年度ゼロということで、実績なしということになっております。資料では施設の空きがなく、児童相談センターに一時保護等に勧めたということが書いてありましたけれども、本来、事業を行うということは、その見込みに併せて実績もあるはずで、そのために、やはりそういう施設は確保されているのではないかと私は思うのですが、なぜ確保できなかったのか、その理由を教えてください。

また、第2期計画の83ページを見ますと、その施設の名前が書いてあります。ここでは受入施設を確保しますと書いてあるわけですね。乳幼児1カ所、児童養護施設1カ所で確保しますと書いてあるのですよね。やはり事業ですと、必要な施設等を確保して、それを実施するということになりま

すけれども、今回、実績がない理由が、施設が確保できなかったということで、これは実施できなかった。そのために、先ほど言った一時預かりのほうに人を回したということになっておりますので、その確保できなかった理由というのを、ちょっとお聞かせ願いたいなということと、何人くらいが対応できずに、一時保護のほうに行かれたのかというのを教えてください。以上です。

### 【事務局】

子育て世代包括支援センターの日比野です。よろしくお願いします。

ご質問いただいたショートステイについてですけれども、小牧市が委託している施設として0～2歳までが乳児院の竜陽園、それから、3歳以上になってきますと児童養護施設、これは小牧市内ではないですけれども、犬山市の溢愛館と契約しております。ただ、小牧市と専属でそこを契約しているわけではなく、近隣の市町など、小牧市以外からも利用者がございます。その中で、やはり施設も色々な事情でお子様をお預かりしているという状況がある中、こちらでも何度かお願いしたところではありますが、空きがないことには依頼があってもお子様をショートステイに出せることができないということがございましたので、その代替として、春日井児童相談センターを通じまして一時預かりをお願いしなければいけないというような状況でございます。ですので、その分が一時預かりに行ったというわけではございません。

あと、何人くらいかということなのですが、2、3件ほど、そういったご依頼があったと思っております。なので、今後も引き続き関係施設に利用状況も聞きながら、なるべく小牧市でそういったニーズがあるということもお伝えし、利用ができるようお願いしていきたいというように思います。以上です。

### 【鈴木会長】

いかがでしょうか。

### 【鳥居委員】

わかりました。

ただ、事業として展開するのであれば、せつかく、相談を受けた方たちが、やはりその事業を信頼して相談をしたと思います。やはりそのような、信頼を損なうような事業展開でいいのかということ、を改めてしっかりと市としては検討していただきたいなと思います。以上です。

## 【鈴木会長】

ありがとうございます。

確かにちょっと、今後受入施設を増やしても、もっと色々なところで出てくる可能性はありますので、そこを見越して新規開拓をするなり、相談センターへ委託をするにしても、そういった形で、そういう場合は、代替として、行っていただくこともありますよ、ということも少なさったほうがいいかなと。やはり、それを目指してきたのにというのは、確かにそのとおりだと思いますが、なかなか難しいですかね。どうですかね。

受入施設そのものが、もう本当に見つからないということをやはり感じますので。かなり遠くまで行かないと受け入れてもらえないということが他市ではありましたから。いかがでしょうか。

## 【事務局】

確におっしゃるように、当然ニーズがあってご利用される方があるということは、それなりに確保していかなければいけないというように考えております。

子育て世代包括支援センターでも、多様なニーズに合った形で保護者の方の相談等支援をやっておりますので、その中で、どういったものが求められていて、どういった支援をしたほうがいいのかということについては、検討しているところでございますので、その辺りも保護者の方と相談をしながらやっていきたいというようには考えております。

今、ご指摘のございましたショートステイ等の確保については、今年度もまたご利用されたいという方が出てくる可能性もございますので、当然、そのニーズの合った形で対応していきたいと考えております。以上です。

## 【鈴木会長】

このことに関しては、どこも結構苦慮していますので、難しいことは本当によくわかります。そのような中で非常に努力をされているというように思いますので、大変かとは思いますが、ぜひ継続して検討をお願いしたいと思っております。

他に、資料3-2に関しまして、ご意見ございますでしょうか。伊藤委員、お願いします。

## 【伊藤委員】

すみません。3-2の資料に関する意見の時間だと思いますけれども、3-1の資料に戻っても大

丈夫でしょうか。

10ページですけれども、5番の病児保育事業ですが、市内に2つ、診療所に併設されているということですが、地域的にちょっとエリアが偏っているのかなと思うのですが、そういうご不満とか出てきたりはしていますか。

あと、それで数を増やそうかと思うと、意外と間に合っていますね、人数的には。断られて困っているということを過去に何度か聞いたことはあったのですが、第2期計画で数を把握したら、数としては足りている。だけれども、エリアが遠いということは、病人をそこまで、ちょっと具合が悪いお子さんを連れて走るご父兄の方の心情を考えると、個々の病院のその確保されているベッドの数は、例えば、5あったのを3にして、どこか2をもう少し違うエリアで確保するとか、こういったことを少し考えてみえるのかどうか、そのところが伺いたいです。

あと、体調不良児対応型は、私立保育園の4園に看護師さんが配置されているとのことですが、その看護師さんは、もちろん国家試験受けられて免許を持っていらっしゃるのでしょうかけれども、研修を受けたりなどして、例えば今ならコロナであったり、その時々には流行るものというのがありますよね。新しく流行り出したものとか、あと、すごく専門的な知識を持っていないと対処できないようなお子さんの対応なんかについても、ちょっと不安があるのですが、その辺りは市のほうで把握してみえるのかどうか、その2点を伺いたいです。お願いいたします。

### 【鈴木会長】

よろしく申し上げます。

### 【事務局】

幼児教育・保育課の古川と申します。

まず、市内の診療所の幼児対応型についてですが、小木ファミリークリニックが大体市の南西部で、もう一つの小牧原にあるはやしこどもクリニックが東部といったような形で、大体のエリアで、と考えております。

確かに、今のおっしゃられたように、2つ利用しようと思って断られたという経験があると、思っている方もやはりみえると思います。診療所へ聞くと、やはり1つのエリア内に、そういったところでやっているものですから、感染症が流行った場合は、そこで感染症の子を1人預かっている場合で、

同じ場所でまた預かると、感染してしまう可能性があるといったところで、お断りをする場合があるといったことは聞いております。

今、伺ったとおり、全体の受入れのキャパシティについて、まだ、市内では、充足しているとまでは言えないのですが、そこまで不足しているというところではないものですから、現状として新しくもう1カ所を探すというようなどころでは、検討はしていない状況であります。

### 【事務局】

続きまして、この同じ病児保育の事業の部分で、体調不良児対応型ということで記載をさせていただいているところです。これも病児保育事業というくくりにはなっていますけれども、全く様相は違うというか、体調不良児対応型については、私立の保育園において看護師を配置して、保育中に在園児の体調不良等があったときに、保護者が迎えに来るまでの間、応急処置をしていただくという事業です。そういった保育園に対して、国からの補助もあるわけですが、市から看護師の人件費の一部を補助するという形で行っています。

今、伊藤委員からもご指摘ありましたが、実際にその場でどういったことをやっているとか、そういうことまでは、正直、把握していない部分が多いです。県の監査などで対象にはなりますが、市としていろいろなことを把握しているかという、やはりできていないところも多いので、今、まさにコロナの関係でいろいろ変わるというご意見もいただいていますので、こういう取組みをやっている等の情報は、市として共有できれば良いかなと思います。ご意見ありがとうございました。

### 【鈴木会長】

伊藤委員、よろしいでしょうか。

### 【伊藤委員】

はい、期待しています。

### 【鈴木会長】

期待していただきたい。

断られたとなると、非常に感染力の強いお子さんを受け入れたときに難しかったということですね。

また、それだからといって、では、2部屋、3部屋確保するというのも、予算の点からも難しいかもしれませんが、コロナなどの感染症が流行った場合、どういった対応をなされるのかということは、

もう少しシミュレーションをしていたほうがいいかなというように私も思いますので。そうですね。コロナでは大変なことになりましたね。今、ちょっと落ち着きつつあるところですので、今までの補助ですとか、色々なことのコロナ対応が少し落ち着いたところで、来るべき2波、3波に対応できるようにということでご検討いただけたらと思います。

貴重なご意見、ありがとうございました。

では、他にいかがでしょうか。伊藤委員、どうぞ。

### 【伊藤委員】

すみません。また、資料の3-1についてです。

16ページの2児童虐待防止のための早期発見・早期対応のところ、聞くところによると、外国籍の方もそのような問題を抱えているというのをよく耳にします。そのことを市が把握していらっしゃるのかどうか。あと数として上がっているのかどうか。また、そこに何かしら対処していらっしゃるのかどうかというところをお聞かせいただきたいです。資料だと、もう日本国籍の方対象というように受け取ってしまうのですけれども、そこはどのようになっているのかということが1点。

あと、3番のこの要保護家族のフォローケア事業のところ、新聞を一時期にぎわせたのは、住民票が他市へ移ってしまうと、その後はちょっと我が市では関知しませんということがありますよね。申し送りとか、そういったことは小牧市としては、移転先への追跡の情報をお渡しするとか、そういったことまできちんとされているのかどうかを、もしそういうことをやっていたらいいのであれば、それも含めて、ここに特記すべきかなとも思いました。その辺りについて教えていただければうれしいです。お願いします。

### 【鈴木会長】

事務局、よろしく申し上げます。

### 【事務局】

子育て世代包括支援センター、日比野です。

2番目の児童虐待防止のための早期発見・早期対応で、外国籍の方の対応というお話なのですが、もちろん関係機関、学校に行ってみれば学校、保育園に行ってみれば保育園、あらゆるところから通告があります。今、いろいろな虐待の種類もあるのですが、そういったことで、当然話

があれば、子育て世代包括支援センターにも、通訳がおりますので、そういった方で言葉が通じなければ、通訳と一緒に対応をしています。

それから、3番目の小牧市から転出、それから、小牧市に転入してきた場合のこういった両タイプのケースがありますが、こちらにつきましても、当然小牧市から転出される方で要対協の関わりがあった方については、きちんとケース移管をしております。

内容によって、書面だけでは十分でないという場合については、移管をきちんとするために、小牧市と、それから、移管先の市の関係機関に集まっていただき、きちんとケース事項の話し合いをしております。

逆に小牧市に転入の方についても、当然、そういったケース記録をいただいて対応を行っております。以上です。

#### **【伊藤委員】**

ありがとうございます。

人数の把握はされているということですね。児童虐待防止の対応にかかる外国籍の方についてです。

#### **【事務局】**

すみません。外国籍の人数ですけれども、すぐ集計ができなくて、全体の数字として今まで出していますが。ただ、ここの中には外国籍のご家族というか、そういった関わりのあるお子様の世帯も入っております。

#### **【伊藤委員】**

わかりました。ありがとうございました。

#### **【鈴木会長】**

色々なことに対して支援していますということで、本当に大変な事業が出ていると思いますので、本当にお疲れさまでございます。フォローをしっかりとやられているということですので、その辺は安心してできるということですね。

そういった部分についても、問題にならない程度に報告していただいたらいいかなというふうにあります。

それでは、他はいかがでしょうか。長谷川委員、よろしく申し上げます。

## 【長谷川委員】

資料3-2の25、26ページについてお願いします。

小牧市内全保育園の児童数の移り変わりといったところが載っているのですが、例えば、26ページの西部地区、29年度について昨年度資料では2号、3歳から5歳が、実績で360だったのが、今年の資料では357、隣の0歳が昨年は18だったのが、今年は9というように、昨年度と今年で実数に違いがある。これは中部地区でも同じことは出ている。というのは、一体どれが正しいのかなと。

また、25ページの全市、令和元年度の認定こども園・保育園の確保の内容、いわゆる定員ですね。ここの2、280と81と683を足すと3,044。ところが、令和元年度の「小牧市の保育」という冊子があります。こちらのほうでいくと3,099。定員に55人違いがある。その辺り、ご説明ください。

## 【鈴木会長】

よろしくお願いします。

## 【事務局】

申し訳ありません。数字については、一度全体を通して確認いたします。「小牧市の保育」という冊子の部分と数字が異なるということで、一度整理して、また改めてご報告をさせていただきたいと思います。

## 【鈴木会長】

数字については、どこかの時点で集計したものを出して、また違う時点で集計しているということもあるかもしれませんね。かつ、この場で回答するのは難しそうじゃないですか。長谷川委員、宿題でよろしいですか。

## 【長谷川委員】

はい、それで大丈夫です。

## 【鈴木会長】

最終的にこの報告が出ますので、そのときには正確な数字とする必要があると思います。この会議以外のところで出た数字に関しては、集計方法なり何なりが異なっているかもしれませんので、その

辺りと合わせられるかどうかは分かりませんが、この少なくとも量の見込み、それから、この内容について、ここは整合性が取ればというふうに思いますので、また、ご検討をよろしく願います。

### 【長谷川委員】

それでは、数字を出していただくということでいくと、資料3-1の21ページの3番、妊婦健康診査事業。ここでたくさんの人に配布をしていった、そのうち受診者は何%あったのか、これを挙げておいていただきたいと思います。

というのも、これは、前後のいろいろな事業と関連して見ていくと、たくさん配りました、その分たくさん皆さん来てくださいましたというのなら良いですけれども、配っていったものの、あまり健診に来ていないとなると、逆にそれは問題ですよ。ほかの事業で漏れた人を救っていくとか、そういったことも考えていかななくてはならなくなるので、よろしく願います。

### 【鈴木会長】

それは出ますでしょうか。では、願います。

### 【事務局】

子育て世代包括支援センター副所長の岡本と申します。よろしく願います。

妊婦健康診査についてなんですが、この健診の性質上、妊娠した方に決まった枚数を、15枚以上の妊婦健診受診券をお配りして、皆さん、主治医を持たれますので、主治医の指示のもと、主治医の指示に従って妊婦健診を受けていただくということになります。

15枚全部使って妊婦健診を受けられる方もおみえになりますし、15枚では足りない方もおみえになりますし、また、予定日前に15枚使い切らずに出産をされる方もおみえになります。ですので、その枚数を使用したのが、それが100%なのかというところが、私どもで判断することが難しい部分もございます。医師の判断に基づき妊婦健診を受けていただくということになりますので、国の指示に基づいて、全国共通で、14回プラス子宮がん検診1枚の計15枚の妊婦健診を支給させていただいておりますので、それに基づいて使っていただいているというのが現状でございます。以上です。

### 【鈴木会長】

これは、配布は市が行うけれど、計上は別のところなので、市で把握できないということですね。

券は返ってこないということですか。

**【事務局】**

妊婦健診受診票は、妊婦さんにお配りしております、病院で使用されます。そうすると、病院が国保連合会のほうに健診費用を請求し、最終的には市がその結果を把握して、病院に健診費用をお支払いするという、形態を取っております。ただ、妊婦健診を何回受診するかというのは医師の判断に基づくというところがあります。時々、望まない妊娠などを理由に、妊婦健診を受けていない場合があります。そのような場合は、受診券が戻ってきているか等を確認しながら、また、病院と連携を取りながら、受診勧奨を含めた支援を行っております。

ですので、妊婦健診の使用状況や結果は、市が全て把握しております。以上です。

**【鈴木会長】**

では、その中で有効には使われているというか、おおむねということですね。

**【事務局】**

はい。

**【鈴木会長】**

ただ、それが見える形になるかどうかというところが長谷川さんのご質問でわかりますので、また、これは可能かどうか。公表することについて懸念がないかどうか、そういうこと等をまた検討していただいて、次回でもお答えいただければというふうに思います。

ほか、よろしいでしょうか。

これまで、色々ご意見をいただいて、このように活発に出る会議というのはすごいなと、今、思いながらやっています。本当に真剣に。25人の委員がいらっしゃいますので、各委員に一言は言っていたきたいなと思いつつ、時間の関係上、今日はこの辺でと思っております。

なかなか数値とか評価とか難しい内容も入ってきますので、ご意見が返しにくいこともあるかと思っております。ちょっと余裕が出てきましたら、政策そのものとか、現状ですとかいうことに関して、ご意見が頂戴したいかなというように思っておりますが、とりあえず本日のところはここまでにさせていただいて、次に行かせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

それでは、資料の3の1、2、その他のところでのご意見、ご質問はここまでにさせていただきます

して、次に移らせていただきます。

## 4 その他

### 【鈴木会長】

では、次第の第4で、その他 報告事項ということで、まず、「放課後子ども総合プラン導入検討委員会からの報告について」、事務局からご説明をお願いします。

### 【事務局】

では、放課後子ども総合プラン導入検討委員会からの報告について、説明いたします。

資料4をお願いいたします。

放課後子ども総合プランは、小学生児童の放課後の居場所として実施している児童クラブ及び放課後子ども教室を一体的に運営し、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことで、次代を担う人材を育成することを目的として国が策定したものであります。

小牧市においても、今後、小牧市版の放課後子ども総合プランをどのように進めるのか、令和元年度に、小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会を設置し、検討を進めてきました。

現在の計画では、令和3年度から市内2地区にてモデル事業を実施することとしており、令和2年度は、そのモデル事業の詳細設計を進めます。6月3日に第1回委員会を開催いたしましたので、その内容について報告いたします。

議題（1）モデル事業の実施について、モデル事業の実施内容は事務局から説明し、委員の方からは、主に①から⑦のご発言がございました。読み上げさせていただきます。

①合同の体験活動に係る子どもからの1つの意見として、特別なイベントがたまにあればすごくうれしいし、映画鑑賞やクッキングは楽しいと思う。でも、一番やりたいのは、グラウンドを全面使って友達と遊びたいというものがあった。大人は子どものためにあれこれ活動内容を考えるが、実は、子どもが求めていることは意外とシンプルかもしれない。

②児童館では、地域の方にコンサートを依頼している。子どもが自分の住んでいる町、地元を知ることにつながっていると思う。

③地域の資源は実はたくさんあるのに、あまり使われていない。放課後子ども総合プランを実施するに当たっては、自分たち従事者で企画から全部行うのではなく、地域の方に1時間、何かお願いす

ることもできると思う。モデル地区1つでうまくできれば、ほかの地区もまねることができると思う。

④現在の放課後子ども教室の利用者に、例えば、「お迎えのときに少しでも早く来て一緒に活動しましょう」と声かけしても、遠慮しているのか、多忙なのか、ほとんど参加する方はいない。

⑤合同の体験活動は、コンサートや読み聞かせなど、子どもの人数が多くても大丈夫なものから始めていきたい。

⑥頻繁に合同の体験活動を行っているほかの自治体の事例を参考にしたい。

⑦例えば、定員の都合等で活動に参加できなかった子どもが、参加できた子どもが工作活動で作った物を見てうらやましいと思うことはあると思うが、その気持ちが次につながる。自分が大人になったときに、その体験が生きてきて何かにつながるという考え方もあると思う。公平性が保たれないため全員参加できないものは否とするのか。やれない子にフォローしながら、工夫して一部でも行うのか、今後検討を進める中で必要な観点の1つだと思う。

内容は以上です。次回の委員会は、7月16日に開催する予定です。

事前に2つのモデル地区において活動内容を具体的に検討し、それぞれ中間報告を委員会の中で行います。互いの内容について意見交換を行い、引き続き活動内容の検討を進める予定です。報告は以上です。

### 【鈴木会長】

ありがとうございました。

コロナの影響で学校が休校になり、放課後自体なかったですけれども、今までしばらく。それで、その後、実際開始になってから委員会があったということですので、ただいまの説明や、モデル実施についてのご意見に対して、このこども・子育て会議の皆さんからご意見はありますでしょうか。

合同でやるといっても、なかなか大変だったと思いますがね。ちょっと合同ですと、また3密になってしまったりだとか、非常にやりづらいところでご検討いただいているとは思いますが、どうでしょうかね。

廣瀬委員、お願いします。

### 【廣瀬委員】

教えていただきたいのは、③の地域の資源は実はたくさんあるのに、あまり使われていないとい

うように書いてあるのですけれども、ここで言う地域というのはどこのことを言っているのでしょうか。

### 【事務局】

③の地域につきましては、特定のどこかを示しているというよりも、いわゆる一般的な表現として、例えば、小牧市においても16の小学校区があって、児童クラブも16、放課後子ども教室も小学校区ごとになるのですけれども、それぞれの地域において、例えば、おやじの会だとか、ボランティアの団体さんですとか、そういうようなことを指して地域としております。

### 【鈴木会長】

廣瀬委員、いかがですか。

### 【廣瀬委員】

はい。どこなのかというのを知りたかっただけなので。

### 【鈴木会長】

ああ、なるほど。そういうことですね。

この地域の資源って、ボランティアの方ですとか、あるいはそこにある施設とか、そのようなところで、活用できるものがたくさんあるよ、というように私は見ていたのですけれども、そのような感じですかね。何かニュアンス的にはそのような感じがしますね。多分コンサートをしたりとかっていうのも、あんまりそんなお金払って、大枚はたいて来ていただく、聞いていただくみたいなのではなくて、やっているのですね。そういう中で子どもたちに体験が広がっていくのだというふうになっていくと思います。

そのまま、やってやるよと言ってくださる方がたくさんいたら、こういったことはそういう形になるかと思うのですけれども、なかなか、つてがなかったりであるとかいうこともあるのではないかなというように。そういったことも含めて充実させる方向で考えればいいかなというように思います。

このような形で、ちょっとコロナがあって難しいですよねということで、でも、そういった地域の資源を活用しながら、ぜひ充実させていただきたいと思います。

他にご意見いかがでしょうか。また、後で何か思いついたら手を挙げていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、続きまして、「第一幼稚園のあり方に関する検討部会の今後について」、事務局からご説明をお願いいたします。

### 【事務局】

それでは、私から説明をさせていただきます。

資料5として、当面のスケジュールということで、1枚資料を用意させていただきました。昨年度の最後、2月ですね。2月の第5回のこども・子育て会議におきまして、市内で唯一の公立幼稚園であります、この第一幼稚園の今後のあり方の検討をしていくための部会の設置をお願いさせていただいたところですが。当初のスケジュールでいくと、この4月、5月に部会を開催させていただいて、本日、この場で中間報告をさせていただく予定をしていましたが、この新型コロナウイルスの影響もありまして、4月、5月は開催できなかつたため、スケジュールを見直させていただきました、7月6日に第1回の検討部会を開催させていただく予定をしております。次回、第2回のこども・子育て会議において、どこまで意見がまとまるかは分かりませんが、中間報告をさせていただく予定をしております。

現段階では、この資料に記載のと通りのスケジュールで進めていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

### 【鈴木会長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に関しまして、ご質問やご意見はございますでしょうか。

私も、しばらく第一幼稚園、この10年くらい通わせていただいて、色々なお子さんを見てきたのですが、本当に一生懸命頑張られて、地域の教育の質を高めるために頑張っていらっしゃるなと思います。これまではコロナで会議ができなかったということなのですが、ぜひしっかりと検討していただきたいなと思っております。

色々な自治体に行って、私も子どもを見て回っておりますが、多様性があるというのは非常に大事なことだと思います。私立や公立のそれぞれの役割であったり、保育所、幼稚園の違い、こども園ですね。どんどん多様性が出てきて、色々なことに対応できるというのが非常に大事だと思っておりますので、ぜひその点でご検討いただきたいと思います。長江先生、ぜひよろしくをお願いいたします。

その結果は、中間報告として8月6日にお聞かせいただけるということで、楽しみにしております。

以上で予定していた報告事項は終わりましたが、何かご意見をお伺いできたらなと思っておりますが。

いろいろなところで、難しい話とか詳しい話をいただいていたのですが、保護者の皆さんからご意見がもしあれば、簡単でも結構ですので、ちょっとお伺いしたいなど。本当にこのコロナで大変な思いをされてきたと思うのですが、何かあったらなと思うのですが。

堀江委員、もし何かあれば、なかったら別に大丈夫ですが、いかがですか。

### **【堀江委員】**

保護者の代表として来ています堀江と申します。

突然選ばれて、こういう会議に出席するのは初めてで、ちょっと私の中では、とても難しい話だったなと思ったところもありましたが、私も娘が2人いるのですが、まだ幼い部分もあって、こういう子育て支援というものに関して、正直言うと、全然分かっていません。今度、上の子が小学生になるのですが、多分今後、放課後支援というものとも携わろうと思うのですが、どうやって入れるのかとか、予約じゃないですけど、参加したいときも、どこで何を聞けばいいのかですらも、わからない状態なので、それこそ、先ほども情報提供の話で出ていましたけれども、私たち、正直スマホばかりなので、チラシとか配られても、あまり目を通してなかったりするので、情報収集の仕方から、ちょっと勉強していきたいなど。今回こういうことに参加することになって、改めて子育てに関して、もっと勉強していかないといけないなと思いました。ありがとうございます。

### **【鈴木会長】**

ありがとうございます。

ということは、情報提供の仕方は、ちょっと市のほうで考えなければいけないということですね。やはりスマホですか。

### **【堀江委員】**

そうですね。

### **【鈴木会長】**

ねえ、スマホですよ。どこのチャンネルで来るかと。LINEであったり何かだったりという

のは、実態をちょっと見て、お教えいただくのが、ひょっとしたらいいかもしれませんので、もしよろしければ、また後で事務局に、自分はこんなのがあったらいいなとかいうのを、思いついたらで結構ですので、お寄せいただければと思います。ありがとうございました。

では、公立から武智委員がいらっしゃいましたね。何かご意見等ありましたら、お願いします。

### 【武智委員】

武智と申します。

私も子育てをしていく中で、児童センターや児童クラブ、保育園などで大変お世話になりまして、子育てをやってこられたのですけれども、今回、コロナでちょっと保育園を長期間お休みしたときに、子どもが少しストレスを抱えて不安な部分はあったのですが、保育園の担任の先生から小まめにご連絡をいただきまして、子どもの不安なども解消されましたので、とてもありがたかったです。

### 【鈴木会長】

ありがとうございました。

よかったですね。本当にきめ細やか対応していただいて、多分お子さん、本当に安心だったしたのではないかなと思います。そうでなくても、いろいろストレスたまりますので。ちょっと2日3日休んだだけで、お母さんも大変ですので、本当に子どもたちって大変じゃないかなと思いますけれども、本当にそういう声がけといますかね、先生方のちょっとした心づかいが励みになられるかもしれませんね。ありがとうございました。

それでは、岩瀬委員、いかがですか。

### 【岩瀬委員】

岩瀬です。よろしく申し上げます。

今回、こちらの会議に参加するに当たって、いただいた名簿を見ると、すごい方ばかりで、今日来るのは重苦しいような思いで来たのですが、多分私たちに求められているのは、素人の率直な感想なのかなと思って来ていますので、今日も本当に意見というより感想程度なのですが、子どもが高校生から幼稚園まで3人おりまして、高校生の子どもの小さかった頃とは本当に随分、子育て支援に関しても中身がすごく変わっていて、毎年新しい、いろいろな政策をしていただいて。

小牧市は手厚く子どもに対しての事業が行われているなということ、本当に他の地域の方からも

たびたび言われる言葉ですので、小牧市民でよかったなということは常々感じております。

やはり先ほどの情報の入手の仕方が本当に大事だと思って、私の世代でも、やはりスマホが周りのお母さん方とのやり取りにはそれがある。そうすると、もう子どもに至っては、全くその最中なので、高校生、中学生、大学生に何か伝えようと思えば、やはりそういったものが大事になるなということ常々感じております。以上です。

### 【鈴木会長】

ありがとうございました。

そうですか。高校生はスマホ絶対ですもんね。そのような形で、もう本当に情報化社会の真っただ中を生活しているお子さんたちだと思うのですけれども。

でも、本当に小牧市、手厚くなっているのを感じられたのですね。そういうことですので、市の皆様方、これを励みに、ぜひ頑張ってください。

ただ、本当に難しいことはいっぱいあると思います。特に、支援をしているお立場の行政の方々は、本当にいろいろなことをされていると思いますので、できないこともいっぱいあるかと思いますが、それでも少しずつ進んでいただければうれしいですし、本当に目いっぱいやっているということとをぜひ市民の皆さんに知っていただく、本当に自信を持って高い評価をつけていただいていたらいいと思うのですね。

先ほど課題に挙がったところは、どこの市も一生懸命やっても全然できていないところですので、小牧市だけではなくて、いろいろなところが本当に苦労して、それでもここまでできているということというのは、ほかと比べたら、もう本当によくやっちらっしゃるなというふうに私自身は思います。

ただ、ご指摘いただかないと、なかなかどうやって改善、一步を踏み出したらいいかというのはわかりませんので、そこはもう真摯に受け止めていただきながら、でも、ぜひ一緒になって施策を進めていただきたいなというように思っております。

いろいろな皆さんの苦労ですとか、行政の方の苦労ですとか、あるいは保護者の皆さんの思いでいらっしゃいますとか、また、サービスを提供されています保育園、幼稚園、こども園の先生方ですとか、また、地域の方々のご努力とか、いろいろなものが相まって子どもが育っていくというふうに思

っておりますので、ぜひ皆様でご検討いただき、いいものにしていただければなというふうに思います。

この辺りで進行を事務局にお返ししようと思いますが、長江先生、何か一言あったら。

### 【長江副会長】

せっかく鈴木先生がまとめてくださったので、ここで私がまた何か引っ張るようで申しわけないですけれども。

今取り組んでやっていることについて、自信というところで、小牧市ではないのですけれども、近くのところで、保育園がコロナの影響で自粛要請が出て、園児さんが休んでいるときに、こいのぼりを揚げなかったという話を聞いたのですね。なぜかというと、「お母さんたちは、お忙しいのに自粛してもらって申し訳ない。だから、こいのぼりを揚げると、何か保育園が元気に遊んでいるとか楽しんでいるというふうに思われたらいけないから、だから、あえて揚げないのだ」というふうに言われた園長先生がみえて、「いや、逆じゃない」かと思うところもありました。逆にこいのぼりが揚がっていると、今は本当にコロナで季節感もないところで揚がっていると、「ああ、それだけ元気がもらえる」とか、「ああ、よかったな」というところで、「もっとやっていることに対して自信を持ってアピールしてもいいじゃないの」という話をしていたのですね。

やはり公務員さんだと、どうしても、何かすごく遅くまで、特にこういう担当の課は遅くまで仕事をされて、本当に日々毎日いろいろな話を、「いつ、どうしたらいいのだろう」ということで検討されたりしているところで、やっていることに対しては、本当に自信を持つというか、誇りを持たれて、どんどん評価などもよくされればいいのではないのかなと思います。

あまりこういう、本当に今日の「3」とか「4」という話も出たのですけれども、やはり、意見は意見で真摯に受け止める必要はあると思うのですけれども、でも、ご自身たちがやってみえることに対しては、自信と誇りを持たれるのもいいかなと思います。以上です。

### 【鈴木会長】

ということで、自信を持って、第2回を楽しみにしております。

では、事務局へ進行をお返ししますので、よろしく申し上げます。

## 【事務局】

大変長時間にわたり、ありがとうございました。

また、大変貴重な、そして、温かいご意見を賜りました。ありがとうございました。

それでは、最後に、今後の会議日程について、ご案内をさせていただきます。

次第の4の(2)を御覧ください。次回の会議につきましては、令和2年8月6日(木曜日)、午後2時から、同じ会議室になりますが、本庁舎601会議室で開催をさせていただきます。

なお、この会議の折には、本日ご意見をいただきました令和元年度実績について、ご回答できなかった部分につきまして、回答させていただきたいと思っております。

第3回以降につきましては、記載のとおりではありますが、また、正式に決まり次第ご連絡をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして、令和2年度第1回小牧市こども・子育て会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。